

# 令和元年 12 月市長定例記者会見 記録

令和元年 12 月 18 日(水)

午前 10 時～午前 10 時 40 分

## 発表案件

### 1. 文化財防火デー「防火訓練」の実施について

毎年 1 月 26 日は文化財防火デーに定められております。これは、昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂で火災が発生し、貴重な壁画が焼損したことから、これを教訓としまして文化財を火災、震災その他の災害から守るため、昭和 30 年から 1 月 26 日が文化財防火デーと定められました。全国的にこの日を中心にして文化財防火運動が展開されておるところでございます。

佐渡市でも毎年文化財防火デーに合わせて防火訓練を実施しており、今年度は令和 2 年 1 月 26 日日曜日の午前 10 時から相川下京町周辺において実施いたします。内容としましては、家屋からの出火を想定した消火訓練及び避難訓練。また、消火器の取り扱い講習も予定しております。ご存知のとおり、この地区は世界文化遺産登録を目指す、金を中心とする佐渡鉱山の遺産群の構成要素の一つであり、また、国選定の重要文化的景観「佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観」の一部でもありますことから、災害対策や市民の防火意識の向上が特に必要な地区の一つと捉えております。当日は佐渡市消防本部や地元消防団とも連携した訓練を実施しますので、地域住民の皆様からも多数ご参加いただきたいと思っております。こうした活動を貴重な文化財の保護に向けた意識醸成に結び付けていきたいと考えております。

### 2. 「ゆいノート」の普及と活用について

佐渡市では、佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会と共同で佐渡市独自のゆいノートを作成させていただきました。このノートは、24 ページで編集された小冊子で、自分の人生を振り返りながら今の自分を見つめ、今後の人生を自分らしく元気で充実して過ごせるよう、ご自分の人生観や価値観、医療や介護について、ご家族や親しい人と話し合うきっかけとなること、より自分の意思を尊重した生き方を考えるための手助けとなるよう作成させていただきました。配付は 1 月中旬から、市役所、各支所・行政サービスセンターをはじめ地域包括支援センター、佐渡地域振興局等でご希望の方に配付する予定となっております。また、市役所のホームページからもダウンロードできるよう準備を進めております。多くの方にぜひご活用いただけるよう、よろしくお願いいたします。

### 3. 佐渡市平スキー場の今シーズンの営業開始について

佐渡市平スキー場は今シーズン来年 1 月 11 日から営業を開始いたします。今シーズンの営業日は 1 月 11 日の土曜日から 3 月 15 日の日曜日までの期間中、木曜日から日曜日及び祝日の午前 9 時から午後 4 時までの営業を予定しております。なお、月曜日から水曜日は休場日となっております。

平成 29 年度にペアリフトを新設し、佐渡島内でも安全で気軽にスキーやスノーボードが楽しめるようになりましたが、より多くのお客様にご来場いただけるよう、今シーズンは初級、中級者向けのハミングバードコースと小さなお子様安心して雪遊びが楽しめるキッズ・コーナーを新たに設置しました。他にも交通面で今年度も金井コミュニティセンターと平スキー場を結ぶ無料のシャトルバスを行きと帰りで3便ずつ土、日、祝日に運行し、冬場のチェーン規制や山道の運転が不安な方でも安心してご来場いただけるようにさせていただきます。

また、小中学校のスキー授業の申込みは 17 校、これは小学校 13 校、中学校 4 校でございますが、915 名と増加したため、今シーズンは営業日の木、金曜日と併せて、休業日となっております水曜日についてもこの授業を行えるようにさせていただきました。今シーズンも市民の皆様は佐渡市平スキー場にご来場いただき、スキー・スノーボードなどウィンタースポーツを楽しんでいただきたいと思ひます。

#### 4. 2020 スポニチ佐渡ロングライド 210 の参加者募集について

島全体をコースとしましたサイクリングイベント、2020 スポニチ佐渡ロングライド 210 を来年 5 月 17 日の日曜日に河原田小学校のグラウンドをスタート・ゴールに開催いたします。毎年全国各地から大勢の選手に参加いただいておりますが、市民の皆様からぜひ参加いただき、佐渡の大自然を肌で感じていただきたいと考えております。

今回は従来の 4 つのコースに加えまして、新たに山岳コースとなる S コースを新設します。このコースは石名和木線及び赤玉両津港線を走行する大変エキサイティングなもので、石名和木線は山頂標高が 837m、赤玉両津港線は標高が 367m となっており、この 2 つの山を超えてゴールする非常に難易度の高いコースとなっております。また、石名和木線の登り区間のみタイム計測を行い、山岳賞として表彰させていただきます。平坦な道よりも山道が得意なクライマー気質の方はぜひご参加いただければと思ひます。また、大会前日には昨年引き続き河原田小学校グラウンドにおきまして「遊ぶ」・「体験」をテーマとしました EXPO を開催するほか、コース上 7 箇所に設置するエイドステーションでは、地元の食材を使用しました補給食や佐渡産のスイーツ等の提供も予定しております。参加の申し込みは 12 月 2 日から令和 2 年 3 月 13 日までとなっておりますが、定員に達しました時点で締め切りますので、2020 スポニチ佐渡ロングライド 210 のホームページからお早めに手続きをお願いしたいと思ひます。

他にも大会のイメージアップと大会を全国へ情報発信するため、大会 T シャツのデザイン募集も行っております。受付期間は令和 2 年 1 月 31 日までとなっております。あなたのデザインが大会 T シャツになるかもしれません。こちら詳しくは 2020 スポニチ佐渡ロングライド 210 のホームページをご覧くださいと思ひます。

#### 事前質問

両津夷の火災被災地域の復旧復興状況について被災建物のその後の撤去の経過や再建状況、今後の再建予定について把握されている情報を教えてください。被災地の復旧、復興に向けた調整、支援などに市としてどう関わってきましたか。今後の方針を含めお聞かせください。

市長：

今年1月2日未明に発生しました両津夷の火災では3名が犠牲者となり、計9世帯22名が被災者となった大変痛ましい大きな火災となりました。この火災につきまして、被災世帯が5世帯以上であることから佐渡市の災害救助条例の適用となり、市営住宅の貸付など一定の支援をしましたが、現在は2世帯3名の方への市営住宅の貸付のみとなっております。また、両津支所のほうで被災世帯に意向調査を行わせていただきました。調査内容の中でわかりましたのは、再建するのは1世帯、それ以外のほとんどは再建の予定がないという回答でございました。

被災地の復旧復興につきましては、佐渡市都市計画マスタープランでの具体的な地区計画や都市再生整備計画が策定されていないことも踏まえ、新たに国の制度の活用について新潟県や関係課と検討、協議してまいりましたが、適合するものは現在ございませんでした。なお、被災地が商店街ということで、関係する商工会等と再建に向けた意見交換も実施しております。被災後、商店街組合が中心となりまして、両津商工会向かいの空き店舗を活用し、惣菜、弁当、パンなどの食料品を扱うあすなろ市の営業が始まっておると思っています。今後も地元関係者の皆様と意見交換を進めながら、市としてもできるだけサポートしていきたいと考えております。

密集地域での防火について、この1年で進んだ対策はありますか。この1年間、市全体でどんな火災予防や防火対策に取り組んでこられましたか。また、その中での成果や見つかった課題があれば教えてください。2019年の火災発生状況について、速報値のデータを資料として提供をお願いします。種別や死者数、損害、出火原因と傾向などがわかるようでしたら併せて教えてください。

市長：

消防本部では指定地域火災警防計画の見直しを行い、併せて指令システム改修も実施させていただきました。これにより、迅速かつ有効に消防隊を出動させることが可能となっております。木造密集地域の防火訪問を行い、住宅用火災警報器の設置、維持管理についての指導をしてまいりました。これにより、木造密集地域での住宅用火災警報器の設置率が向上しております。課題としては、佐渡市全体としての設置率はまだ低いため、今後も設置指導を続けてまいります。まずは市民の皆様一人一人が危機意識を持って火災を出さないことが重要と考えております。

次に、2019年の火災件数は27件で、死者3人、負傷者9人となっております。出火原因としましては、電気、火入れ、薪風呂、かまど等による火災が多く発生しております。詳しい資料については配布したものをご覧いただきたいと思います。

新潟—台北線を運行していた遠東航空が、12日に運航停止を発表しました。この路線を使った台湾からの観光客が、多く佐渡市を訪れていましたが、運航停止によってどのような影響があると思込んでおられますか。また、県への働き掛け、台湾以外の観光地への働き掛けなど、何らかの対応はお考えでしょうか。

市長：

今回の新潟—台北の定期便を運行していた遠東航空の運行停止によります影響については、直接

的な影響としまして、12月中に予約のあったものがキャンセル見込みで約200人。また、1月から3月の影響が約1,000人程度と試算しております。

他の機関への働きかけについてでございますが、現在県の空港課へ他の航空会社のチャーター便の運行の可能性について協議させていただいております。また、観光振興課では台湾の現地旅行会社と直接協議を開始しており、他の航空会社や他の路線への振り替えによるツアーの催行を検討中でございます。また、台湾以外へのアプローチについてでございますが、佐渡への入込が好調な香港便へのプロモーションにも注力する方向で現在調整させていただいております。

## 質疑応答

### 1. 文化財防火デー「防火訓練」の実施について

記者：

こちらは予定されているのは、相川の下京町の周辺だということなんですけども、今年火災があった笹川集落では、何か指導ですとか訓練というものを予定されてますでしょうか。

世界遺産推進課長：

笹川集落につきましては、火災があったあと、皆さんのほうに注意喚起の文章をお出しして、注意いただきたいということをお願いをしているところでございます。また、こういった防火デーに合わせた防火訓練については、両津、相川、国中、南部地区と分けてこれを順に実施をしておるとい状況でございますので、この後、その中で地域の協力も必要ですので、そういったところも踏まえて検討、計画をしていくことになると思っております。

記者：

特段今のところは、この日にやるというふうには決まっていらないわけでしょうか。

世界遺産推進課長：

はい。今のところは決まっておられません。

### 2. 「ゆいノート」の普及と活用について

なし

### 3. 佐渡市平スキー場の今シーズンの営業開始について

記者：

平スキー場のペアリフトの設置は市長の肝入りといいますか、ご意向でやられたものと理解されてるんですけども、当初どんな効果を狙ったか、あとこの2年間ででしょうか、そのやった効果は得られたかどうかをお聞かせください。

市長：

私の肝入りというか、これはスキー協会中心に私が当職になる以前から長年ずっと要望されていたと聞いております。その中でいわゆるぶら下がってスキー滑りながら上がるしかない旧来のリフトしかなくて、非常に子どもたちにとっても危険性がある等々の問題を抱えておりました。せっかく佐渡に市営スキー場がありながら、そのような状況でなかなかスキーを楽しむことができない、

しかも、その以前のリフトもかなり老朽化したということで、であれば家族含めてみんなで短い期間ですがスキーを楽しんでもらえるためには、さらに、大きな一つの目的は学校の授業に積極的にスキーを冬場取り入れていただきたい。冬場どうしても体育系の授業がほとんど限定されてしまいますので、そこを含めてスキー協会からの要望も踏まえて、もう少し佐渡、新潟の中にある佐渡でもしっかりスキーが地元の方も含めて楽しめるようにと授業展開も含めて考えて設置させていただきました。

ペアリフトを設置したことで、ちょっと今ここに細かいデータ持っていません。もし必要だったら後で担当課のほうからお伝えしますが、かなり倍以上のお客さんが来てくれるようになりましたので、そこはやっぱりリフトを入れ替えただけで利用者がこれだけ多くなったというところの効果は大きいと思います。

記者：

特に冬場の観光の目玉という側面もあるのかなと思います。その辺りは狙いはどうでしょうか。

市長：

今回先ほど発表させていただいたように、初級、中級者向けの傾斜がゆるいコースあるいは、いわゆるキッズコーナー、雪遊びができる場所とかもスキー協会のほうの努力で作っていただきました。その辺を含めて、こここのところ冬場に台湾とか東南アジアからのインバウンドの方も増えてきている中で、そこをいわゆる佐渡で冬場来たときの体験の一つにもしたいと考えているような旅行者さんも出てきたりしていますので、その辺を含めて色んな展開もこれから考えられるのかなというふうには思っています。まずは大目標が全ての小中学校で必ず年1度授業としてスキー場を利用してほしいというのが1番まず最初のスタートでございますので、今年々広がってきているところをしっかりと今後も続けたいと。それプラスアルファで誘客にも向けられたらと思います。

#### 4. 2020 スポニチ佐渡ロングライド 210 の参加者募集について

なし

#### 事前質問への追加の質疑

##### 両津夷の大規模火災のその後について

記者：

1世帯のみが再建の方向ということでして、今現状ほとんど更地の状態になっていると思うんですけど、その現状については、市長としてはどうお感じになられてるのか。あのままでいいという感じなのか。

市長：

あのままでいいとは一切思っていないですけど、あくまで全て個人個人の方の所有してる土地でございます。その個人個人の皆様が自分の所有地に対してどのような考え方でいるかというところが大前提になっております。市有地ではないので、市が直接ああだこうだということは現状難しいのが実情ですが、あのまま商店街の中でスポンと空き地ができてしまっているところをなんとか今

後の商店街の活性化の中でうまく活用できるスペースにどのようなことで可能なのか、その辺はやっぱり地元の商工会、商店街の皆様とも検討しながら考えていくしかないと思っています。

記者：

先ほどは住宅用火災警報器の設置率の向上が見られたということですが、その数字がもしわかりでしたら教えていただきたい。

消防長：

木造密集地域の住宅用火災警報器の設置率が向上したということで、1月に火災が発生し、その後各消防署のほうで3月に調査をいたしました。その後、この12月に再度調査をいたしまして、設置率で4.3%の向上が見られました。あとは条例適合率での4%増加ということで、木造密集地域44ブロック指定してあるのですが、それぞれ設置率については向上しているという結果でございます。

記者：

何%から何%になったのかも教えてください。

消防長：

3月に実施したときの設置率が71.28%でした。12月に実施した結果が75.62%で、増加率が4.34%となっております。

記者：

75.62%の現状については、どう評価されていますでしょうか。

消防長：

新潟県内の平均で見ましても、まだまだ佐渡市のほうは設置率が低うございます。それについては先ほど市長がご説明したように、今後も住宅用火災警報器の設置促進に向けて色々な活動をしていきたいと思っております。また、今回12月に実施した時点で、ご存知のとおり10年経つという部分で、警報器の交換、電池の交換、設置場所の確認等々の指導をしておりますので、これも踏まえて継続しながら設置率の向上に努めていきたいと思っております。

記者：

先日、両津の商店街で水道に繋がられる簡易的な放水銃を1基付けてましたけど、あれは市の何か補助みたいなのがあったんですか。

消防長：

今のご質問は、街角消火器というものだと思います。これについては両津地区の防火委員会、これは夷・湊地区を委員会の目的であります、火災を予防し、警戒し、防御するために消防活動の充実強化に努めて、地区内の火災を軽減したいということの中で毎年防火委員会のほうでは消火器を交換、更新して各地区に設置しているわけなのですが、今回その消火器の交換の一部をこの街角消火器という部分にあてて設置したということで、これはあくまでも両津地区防火委員会の事業ということで消防のほうは捉えておりますし、消防のほうで助成したということはありません。

記者：

あれは効力ってのはあると思っておりますか。

消防長：

実際商店街の歩道のところに水道の蛇口があって、そこに接続して放水を行うということなのですが、なかなか夷・湊の商店街は、昔みたいに歩道上に水道栓がないのかなという気がいたします。ホースを持って現場に行って、水道水の圧力で消火するというので、初期消火のほうにはそれなりの効果があるかと思いますが、今後また防火委員会と一緒にその辺を検証しながら、効果があるのかなのかという部分は判断し、また、防火委員会のほうにも指導していきたいと思っております。

記者：

効果があるのであれば、もう少し佐渡市として住宅密集地にももう少し台数を増やしてもいいんじゃないかと思うんですけど、その辺どうなんですか。

消防長：

一応消防としては初期消火用ということで、消火栓の横にボックスを付けて市民の方に使いやすいようにということで今設置の促進を進めております。なかなか夷・湊地区につきましては、アーケードがあり商店街がありということでなかなか設置場所がないということが現状でございます。その部分を踏まえて今回防火委員会さんのほうで、こういう設備を1基設置したのかなと思っておりますし、消防としては今現状ある消火栓、あと付帯設備を有効に活用して初期消火に努めていただきたいと考えております。

記者：

両津夷のホースボックスの設置というのは、大規模火災以降、増設はあったんでしょうか。

消防長：

今のところ増設は数が上がっておりません。これにつきましては、商店街、あとは地域の方等々、両津のほうで直接お伺いして設置可能な場所、例えば空き地があるとか、玄関の前に空地があるとかという部分で設置のほうを動けるようにということで指導しております。地上式消火栓がありますので、まずそこから一つずつ増やしていきましようということで指示を出しているところでございます。

**新潟—台北線について**

なし